

カトリック八尾教会ニュース 2024年8月



【今月の予定】

ミサの時間

Tháng tám

『ブロック子ども会夏のつどい』(当教会)

3日(土)	13:00
4日(日) 年間大18主日	7:00 10:00
6日(火) 主の変容	-----
11日(日) 年間第19主日	7:00 10:00
15日(木・祭) 聖母の被昇天	17:00
18日(日) 年間第20主日	7:00 10:00
ベトナム語のミサ	15:00
25日(日) 年間第21主日	7:00 10:00

《日本カトリック平和旬間:8/6~8/15》

- ※『平和旬間ミサ』
- ※『合同追悼式』



平日のミサ

木曜日のミサはお休み

合同追悼式について 8月15日(木) 17時 ミサ後

合同追悼者名簿:

事前に亡くなられた方の名前を所定の用紙に記入して、追悼者名簿箱にお入れください。

献金は任意とし、封筒に入れず名簿と共に箱にお入れください。

合同追悼式はミサに引き続いて、聖堂にて行います。

(典礼委員会)

お願い

(典礼委員会より)

◎聖歌の練習をミサ前(9時40分)より行っています。短い時間ですが、一人でも多くの人の参加をお願いします。

◎典礼奉仕(朗読、歌唱、祈願、伴奏など)やミサ受付をして下さる方を募集しています。典礼委員会までお申し出ください。



ココロ どこ ムカ
心は何処に向っているのか。

いきなり聴きたい音楽を次々と思い出し、スポティファイで検索してプレーボタンを押す。その曲らはCDあるいはカセットテープで聞き込んでいた、あの時代の思い出がいっぱい詰まっていて、聴いているうちに、まだ元気だった生前の父や兄のことが蘇ってくる。

2003年の春ごろ、修道会を退会したその夜、独りぼっちの新居の狭い天井を闇の中で見上げながら聴いていた曲や静養のため実家で静かに過ごしていた時に好んで聴いていた音楽を、今はいくらでもパソコンを通して聴くことができる。AIアルゴリズムが選んでくれるお勧めの曲が絶えず流れてきて、ああ、そうだった。この曲もあつたと頷く。とことん聞き込む。

これから30年くらい頑張ったら神様の御元に帰れると思っている。遡って30年前が1994年、つまり、兵役を終えて復学して、具体的に将来のことを考えては試行錯誤を繰り返し始めていた時だ。それから外交公務員試験準備をやめ、修道会に入り、病気になる、退会して、戯曲作家の勉強をした後、やむを得ず里帰りして、体を休め、就職をして働き、小説家を目指してはカトリック共同体の教師として田舎で生活するようになり、やがて其処の担当司祭の紹介で日本へ来ることになった。日本語の勉強を終え、神学校に入って卒業し、司祭叙階の恵みと与り、1年間玉造教会の助任を務め、4年間ローマで教会法を勉強し、帰ってきて事務局で働く。こういった時間のスパンが丁度30年で、この長さの時間さえ頑張れば、この地上での宿題が終わるのだ。

三つの福音書とヨハネ福音書の次に、使徒言行録がある。そもそも、ルカ福音書の続きの書物であるが、ヨハネ福音書がその間を割り込む形になっている。

使徒言行録の主人公は使徒パウロで、彼は生粋のユダヤ人でファリサイ派の徹底した教育を受けていた若者だった。初期キリスト者達を容赦なく迫害していたが、ダマスクスに行く途中復活されたイエス様に出会い、新しい人に生まれ変わる。彼の宣教の熱意を妨げることは何もなかった。昼は熱心に伝道活動を行い、夜には天幕を編みながら生計を立てていた。3回に渡る伝道の旅と最後に死を迎えるローマ行きを含めての、この偉大な使徒の一生は実に苦勞に満ちたものだった。

しかし、体や心の苦勞にも関わらず、彼は喜びに満ちていた。何処に向かうべきかをはっきり知っていて、揺らぐことなく目的地に向かっていた。そうだ。ローマ！当時の世界の中心ローマで使徒パウロは彼の人生を完成していく。長い期間牢に繋がっていた末、彼は首を切られて殉教していく。切り落とされた首が三回転がり、そこからそれぞれ泉が湧き出したと伝わってくる。

ココロ どこ ムカ
心は何処に向っているのか。

燃え上がり、すべての辛苦を味わいながらも、とうとうと自分のやるべきことをやっていく。常に神様に向かい、根気よく日常をこなしていく。一日、また一日、その蓄積により、やがて終わりが来る。神様と永遠に共にいる時間が訪れて来るのだ！

